

聖書の中で主イエスの誕生の場面を記しているのはマタイとルカであります。ルカは比較的詳しく記しており、人口調査があつて登録のためにヨセフとマリヤがベツレヘムに向かっていたことや客間には彼らのいる余地がなかったこと、誕生を真っ先に知らされたのが羊飼いたちであつたことを伝えております。この人口調査は当時イスラエルを植民地化しておりましたローマ帝国の手によって行われました。目的は紛れもなく税金を課税するためでした。戸籍が整備されていなかった当時のこと、その方法は本籍地へ行って行かねばならなかったのです。人々は全員仕事や生活に優先して旅に出て、必要な手続きを行わねばならなかったのです。抑圧に苦しむ人々の姿がよく描かれている場面です。さきほどの福音書は丁度その箇所でありました。

羊飼いは当時の社会の中で最も身分の低いものとされておりました。彼らは人々から低いものと嫌われ、家もなく野宿しながら羊の群れの番をしていたのです。世の救い主と言われるイエスキリストの誕生を知るには最もふさわしくないように思える人々でした。しかし神はその誕生を誰よりも先に知らされたのです。それは、彼らが一番その誕生を待ち望んでいたからです。人を人とも認めない。いなければいい。いると追い出したくなる。彼らは普段からそのように思われている存在でした。自分が何故この世にいるのか分からなくなってしまふような人々に、イエスキリストは本当の友となり、生きる喜びを与え、慰めるためにこの世に来られた、これは事実なのだと言聖書は語っております。

私たちが礼拝で用います大栄光の歌は、このとき羊飼いたちに現れた天使達が神を讃美して歌つたものです。私たちは日曜日の礼拝の度に、主の誕生が知らされた時の喜びの歌をそのまま用いて礼拝をしているのです。すなわちその喜びがその当時だけのものではない、ただ昔の出来事というだけでもない、今日の私たちにとっても大きな喜びであることをはっきりと示しております。

イザヤ書の五二章を読んでまいりますと、イスラエルは国中に悪がはびこりその結果神は悔い改めを促すために国を他国の手に渡して滅亡させてしまつたことが記されています。人々は捕えられて滅ぼした国へと連れていかれてしまつてしまいます。民は国という大きなよりどころを失い、他国の苦しみにあつて初めて、自分達の上には神がいつもおられ、関わっておられたこと、自分達が神に対して大きな罪人であつたことを悟つたのでした。そのような人達に対し、神は人々に来たるべき希望を示されたのでした。本日の旧約聖書の箇所はその

部分でありました。そして民はやがて元の国の復興を許されることになるのです。

しかし人間はすぐに悪の道に入ってしまった。この箇所の後を読みますと、人間は再び悪を重ね、国を失ってまで味わった苦しみや悔い改めが、やがて薄れていってしまった、子孫に語り継がれることが出来なかったことが記されております。自分は正しく生きようとしても、その子孫にその心が伝えられることは困難でした。再びイスラエルは危機に直面し、先の国とは別の国によって植民地化されてしまいます。旧約聖書は、神がイスラエルに対して関わりをずっと続けておられたのに、人間が無視して悪へと歩み、神はそれに対し悔い改めを促し続けておられた、しかし人間の罪は深く、正しく歩むことは不可能であった。人間には正しく生きる指針が与えられねばならない、その登場を切に待ち望む。聖書はこのように語っております。人間が持っている自己中心の罪は深く根ざしており、もはや人間の力だけでは、一時の悔い改めでは効果は望めなかったのです。

主イエスはこのような私たちのところへ来られました。人間には出来ない力を世で示し、神の国を指し示し、命へ至る、すなわち正しい生き方を人間に示すためにこの世に来られたのでした。わたしたちは主によらなければ命の道へ至ることが出来ません。自分の罪の姿を考えますとき、それは明らかであります。わたしたちはそのことをよく覚えて、主のご降誕の喜びを新たにしたいものであります。